

岡谷市議会 社会委員会 行政視察報告書

【総体事項】

1. 視察日程：平成26年7月8日（火）～10日（木）

2. 調査事項（視察先）

（1）あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）について

（兵庫県 神戸市）

（2）発達障害者支援センター（島根県東部発達障害者支援センター）について

（島根県 出雲市）

（3）市立岸和田市民病院事業について （大阪府 岸和田市）

3. 視察参加委員

委員長	竹村安弘
副委員長	小松 壮
委員	浜 幸平
委員	今井秀実
委員	齋藤美恵子
委員	田中 肇

【視察地報告】

1. 調査事項

あんしんすこやかセンターについて（兵庫県 神戸市）

人口：約1, 536, 000人 面積：約553km²

（視察事項）

あんしんすこやかセンターは他自治体における地域包括支援センターの神戸市独自の呼称である。

神戸市の高齢者数は約40万人、高齢化率は約26%で高齢者世帯数は約30万世帯となっている。

あんしんすこやかセンターは概ね中学校区（高齢者約5,000人）に1ヶ所の割合で神戸市9区に計75センターが設置されており、センター1ヶ所に、主任ケアマネージャー1人、社会福祉士1人、保健師または看護師1人、見守り推進員1人の計4人が配置されている。

見守り推進員は神戸市独自のものであり、阪神大震災後に行われた仮設居住高齢者への声掛けがベースになっている。

地域包括ケアシステムの構築に向け、平成25年度より、区、日常生活圏域単位での連携強化を図るため、市内3区で「地域ケア会議」をモデル実施している。

2. 視察日時 平成26年7月8日（火）13:00～15:00

3. 参加者の所感

- 各区や日常生活圏単位で高齢者の情報収集や地域見守り活動の充実を図っており、都市の大小を問わず、地域の協力の重要性を実感した。
- 市民は大震災を経験し、ボランティアが根付いていることもあり、人材を資源として活用している。
- 介護サービス協会から発行された介護日誌を玄関に吊るして活用されており、本市においても一層の充実を図る必要があると感じた。
- 本市の地域包括支援センターは、保健師・看護師等人数からしても、大変充実していることを、改めて実感した。
- 地域包括ケアシステムの構築は大都市でも難しさがあり、医師会の高齢化、医師、看護師及び看護職員も通常業務で多忙を極めている。岡谷市においては、なお一層困難な課題であると感じた。
- 神戸市独自で配置している見守り推進員や、友愛訪問ボランティアの活動が地域の密着を支えており、岡谷市においても導入が検討されても良いと考える。また、民生委員の負担軽減にもなると思われる。
- 大都市での事業規模に圧倒されたが、大都市であっても、「個」への対応のきめ細かさを感じた。

【視察地報告】

1. 調査事項

発達障害者支援センターについて（島根県 出雲市）

人口：約175,000人 面積：約624km²

（視察事項）

平成17年4月の発達障害者支援法施行により、国の義務付ける県1ヶ所ではなく、出雲市に東部発達障害者支援センター（ウィッシュ）、浜田市に西部発達障害者支援センター（ウィンド）の2箇所の支援センターを設置している。

島根県は東西に259kmと長い上、人口の7割を東部が占め、発達障がい者医療も出雲市・松江市（共に東部）に偏っているという特殊な事情がある。

島根県の発達障がい者支援は「早期発見・早期支援」を基本に、就学前、就学中、卒業後の一貫した支援を目指しており、相談支援ファイルの活用による継続支援を重視している。

平成24年度の2箇所の支援センターにおける支援実績数は相談支援3,417件、発達支援649件、就労支援450件である。

ペアレントメンターを養成し活動を支援するペアレントメンター活動支援事業など、家族支援を行っている。

発達障がい児の特性、細かい支援の記録（例えば、話すときは正面でなく横からなど）で、成人になるまで利用されるサポートブックの作成を指導している。

2. 視察日時 平成26年7月9日（水） 9：45～12：00

3. 参加者の所感

- 岡谷市は福祉の充実を掲げてきた経緯もあり、行政・関係機関・家庭などが一堂に会して、きめ細かな支援体制を築いて行くことが急務と思う。
- 「発達障がいOK」という支援スタンスでの障がい児者支援は、温かいものだと思う。
- サポートブックと同様のものが岡谷市にもあると思うが、幼少期部分が就学時にきちんと引き継がれ、成人になっても利用されると良いと思う。
- 県が主体で行っている事業であり、市レベルで対応する事は難しさがあると思われるが、就学前、就学中、卒業後と一貫した支援が必要であるため、広域連携を図るなど、組織的な展開を考えるべきと思う。
- 岡谷市が設置を検討している発達支援センターが、関係者の声をよく聞き良い施設としてスタートできるようにして行くためにも、今回の視察内容を多くの方に伝えていきたい。

【視察地報告】

1. 調査事項

市立岸和田市民病院事業について（大阪府 岸和田市）

人口：約200,000人 面積：約72.3km²

（視察事項）

市立岸和田市民病院は、病床数400床、診療科32科、医師数約100名、看護師数約400名、医療技術者数約100名、日本医療評価機構認定病院、地域医療支援病院の指定を受けている。

病院ボランティアは院長のホスピスに力を入れたいとの考えの下、社協の協力を得て平成9年6月に開始（現在は社協を通さず独自で行っている）、日本病院ボランティア協会に加盟し、現在64名が登録している。担当は看護師3名が当たっており、平成11年には自主的活動の会として「なずなの会」が発足し、年1回、ボランティア交流の集いを行っている。

また、「地域医療支援病院」の指定要件の一つである「開放病床」を設置している。

視察目的の1つである「大阪e-お薬手帳」は大阪府薬剤師会が進めたシステムであるが、現在は全国20都道府県に拡大している。

2. 視察日時 平成26年7月10日（木）10：00～12：00

3. 参加者の所感

- 岡谷市における病院ボランティアは建物の新築に伴い、フロア案内と誘導が主体になると考えられるが、開院時に有効に働くか検討の価値はあると思う。
- 岡谷病院として取り組む場合、現在行われている病院ボランティアが発展的に引き継がれるのかなど、慎重な検討が必要であると思う。
- 病院ボランティアの方は無理をしない係わり方をしており、義務感からでは長続きしないと思う。
- 病院ボランティアは相手の立場に立った思考、行動が要求され、患者等の癒しに大いに役立つものがあると思う。
- 開放病床を岡谷市に取り入れる場合、医師会との協議が先であり、岡谷病院としての考え方がしっかり固まった後、先進病院の取り組みを参考に進める必要がある。
- 地域医療支援病院の指定要件は高い水準にあり、その達成は岡谷病院では直ちには困難であると思うが、地域医療連携室の役割をより一層高めながら、一つの目標として、頭に入れておくことは意義ある事と思われる。
- e-お薬手帳は、最も必要とする高齢者への対応に工夫が必要ではないかとの感じを持った。